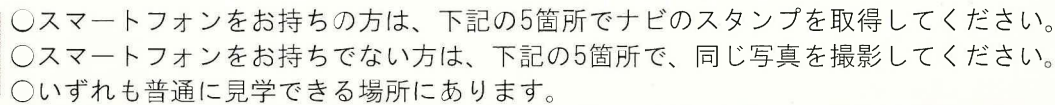
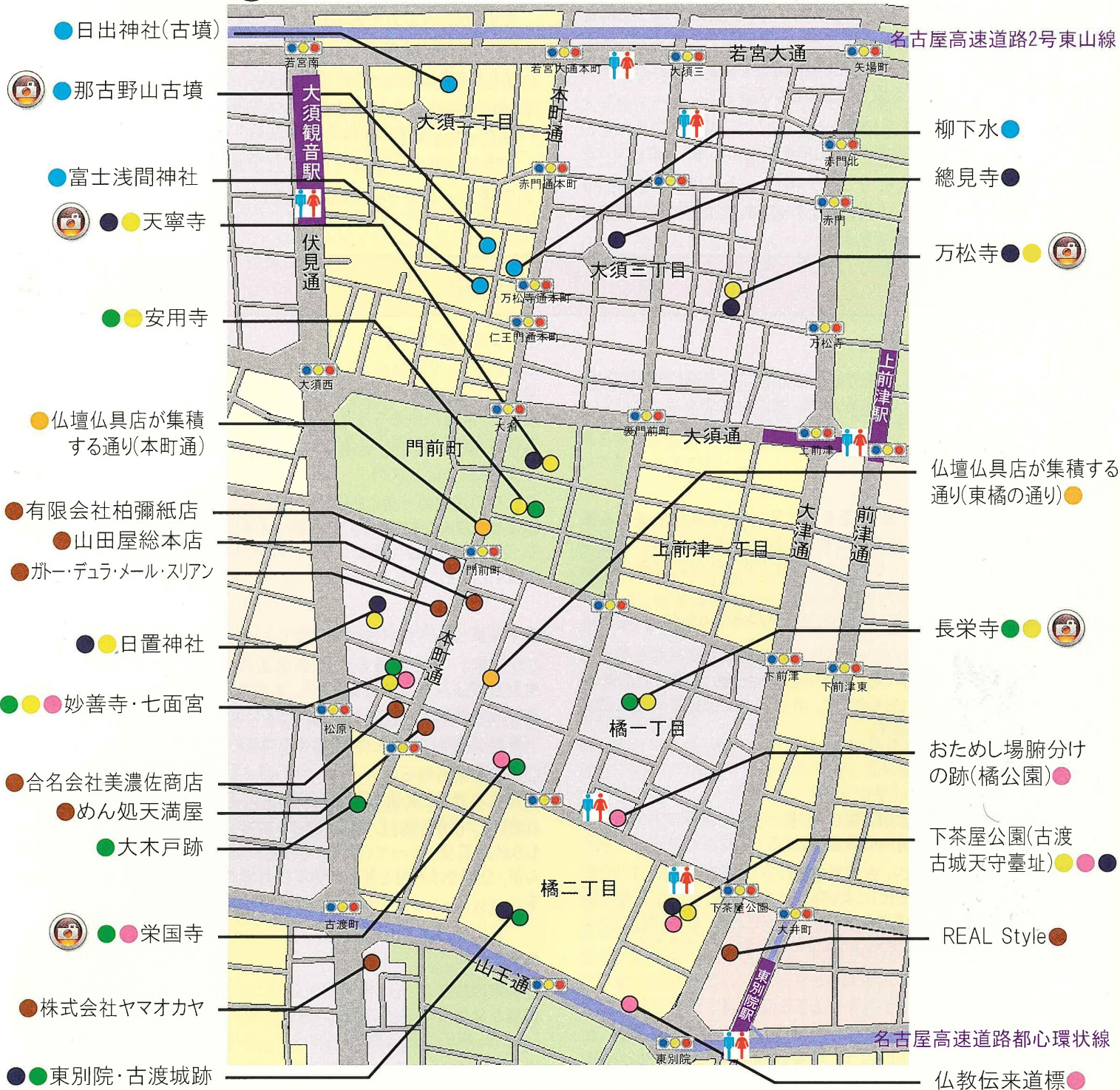


橘町界隈スマホdeまちあるき 見どころマップ

- 織田信長ゆかりの地コース ● 徳川光友公ゆかりの地コース ● 仏壇・仏具のまちコース
 ● 黒漆喰の町並みコース ● パワースポット・石巡りコース ● 外国とのつながりコース ● 古墳コース



 トイレ



⑤長栄寺
よこいやゆうらづか
(横井也有蘿塚)

実施要項

1 参加方法

(1)スマートフォンをお持ちの方

お手持ちのスマートフォンに「名古屋歴史スマートナビ」をインストールし、ナビの地区一覧で「期間限定コース」→「橋町界限スマホdeまちあるき」を選び、チェックポイント(5箇所)になっているスポットでスタンプを取得してください。現地に行つてスポット詳細画面から「スタンプ」を押して、撮影した写真をスタンプ台帳に保存することでスタンプを取得することができます。

(2)スマートフォンをお持ちでない方

中区役所まちづくり推進室又は中生涯学習センターで「見どころマップ(本紙)」を受け取り、チェックポイント(5箇所)で裏面と同じ写真を撮影してください。見どころマップは、名古屋市公式ウェブサイトからもダウンロードできます。

2 記念品引換(限定300個。先着順)

(1)引換期間 平成25年12月11日(水)～平成26年2月28日(金)

(2)引換場所 中区役所まちづくり推進室

※住所、氏名のほか、ナビのスタンプや写真を確認させていただきます。デジタルカメラの場合、モニターで確認しますので、プリントの必要はありません。

3 まちあるきにあたっての注意事項

(1)ナビで紹介する施設には、私有地などを含んでいます。見学にあたってはマナーを守ってください。また、施設の都合により見学できない場合もありますので、ご了承ください。

(2)交通ルールを守り、事故に気を付けましょう。

見どころ案内

●織田信長ゆかりの地コース

三英傑の1人、織田信長がこの地で幼少期を過ごし、元服した古渡城跡をはじめ信長ゆかりの地がいくつもあります。戦国時代の英雄に思いを寄せ、この界隈を巡るコースです。

●日置神社

平安時代初期の「延喜式」に載る「愛智郡日置神社」にあたるとされる格式の高い神社。織田信長が桶狭間の戦いにあたり、必勝祈願し、戦勝の報賓として千本の松を植えたといわれる古社です。今では「必勝祈願の神社」として多くの受験生が訪れています。

境内の一角には200年ほど前に植えられたムクノキがあります。

○いなり・はちまんの力石

境内にある力石は、古く石占(いしうら)からおこったもので、後に村の若者が試力の技具として用いられたものです。明治10年には氏子の一人がはちまんを担いだといわれています。

●東別院・古渡城跡

古渡城は織田信長の父信秀が築城し、信長が元服した城です。真宗大谷派名古屋別院(東別院)境内に碑があります。

東別院は、徳川光友公により、古渡城跡地1万坪が寄進され、1690年に一如上人(東本願寺第16代)により開かれた寺院です。1822年に再建された本堂は36メートルの高さでそびえ立っていましたが、昭和20年戦災で焼失しました。現存の堂宇は昭和37年に再建されたものです。

●万松寺

織田信長の父信秀が織田家の菩提寺として1540年、現在の中区錦・丸の内二、三丁目あたりに開山しました。信秀葬儀の際、信長が父の位牌に抹香を投げつけた事件がおきた寺として有名です。三河の松平竹千代(後の徳川家康)も6歳の時から約2年暮らしたことがあります。1610年名古屋城築城にあたり現在地に移転した後は、尾張徳川家初代義直の夫人春姫の菩提寺にもなりました。

○身代り不動明王

一切の悪魔を降伏させる真言明王の御威勢を示す表情の御立ち姿の石像。1570年、織田信長が越前の朝倉城を攻めた帰り道、琵琶湖の北方で鉄砲の名手、杉田善住坊に狙い撃ちされました。しかし弾は懷中にあつた干餅に当り、信長はかすり傷だけで落命を免れたといわれます。この干餅は万松寺の和尚からもらい受けたもので、これも不動明王の加護によるものといわれました。後に名古屋城築城の際、万松寺に宿をとっていた加藤清正がこの話を聞き「身代り不動」と命名したそうです。

○からくり人形「信長」

本堂の壁面、3階部分からせり出てきます。1日5回(午前10時から2時間おきに18時まで)上映しており、境内から見上げる形で自由に見学出来ます。信長が抹香を投げつける場面と、桶狭間の戦いの前に舞ったと言われる幸若舞を舞う信長を再現しています。

○佛足石

万松寺の境内の一角にあります。佛足石とは、釈迦の永久を願うため足跡を石に刻んだものです。天平勝宝4年、越田安万画、東海大江玄策で、名古屋城建設で集まった石材の中から加藤清正公が見つけたと言われています。

●下茶屋公園(古渡古城天守臺址)

この公園は、旧東本願寺別院・新御殿の後庭のあった場所になります。東別院周辺は古渡城跡地であり、尾張名所図会によれば、ここは「古渡古城天守臺(てんしゅだい)址」となっています。

下茶屋公園は、市の保存樹ハンテンボクをはじめ樹木の多い場所です。

○名古屋城石垣石材

江戸時代初期、名古屋城築城の時に石垣用石材が古渡城跡に集められました。その名残として東別院と下茶屋公園で大名の刻印が刻まれたものが29石見つかっています。その時一緒に運び込まれたかわかりませんが、公園では石材と併せて切支丹灯籠の竿の部分も見ることができます。

●總見寺

臨済宗のお寺で、元は伊勢国大島村にあり、天正年間(1573～)に織田信雄が父信長の菩提のために清須に移し、清須越しの際に現地に移転しました。織田信長公画像ははじめ9点が県指定文化財となっています。

※平成25年11月時点本堂工事中

●天寧寺

信長の守本尊と伝わる三宝大荒神を祀っており、信長がわが子の成長を願って守鶴給馬を奉納したと伝わっています。文化・文政の頃(1804～1830年)より荒神信仰が広がりたい事がある時には粘土で作った雄の鶏をお供えし、祈願が成就した時には雌の鶏をお供えしたそうです。三宝殿正面の唐破風屋根を見上げると雄の鶏・雌の鶏の飾りも見られます。

元は清須城下にあり、清須越しの際に現在地へ移転しました。

●徳川光友公ゆかりの地コース

今の名古屋の礎を築いた尾張徳川家。その二代藩主光友公の時に、古

今集の和歌にちなんで名づけられたのが「橘町」です。徳川光友公ゆかりの地を巡るコースです。

●妙善寺・七面宮

妙善寺は、1680年に尾張藩二代光友公の腫れものの平癒祈願のため、豪商茶屋家二代茶屋長以が自ら刻んだ七面女神像を祀っている日蓮宗のお寺です。

○3代目中村翫雀石碑

境内には、歌舞伎役者の3代目中村翫雀(かんじゃく)の石碑があります。「橘座」で「天一坊」を演じた記録があり、1881年に亡くなりました。自然石の石碑は、名古屋のご臈貝筋が建てたものだと言われています。なお「橘座」は、現在の愛知産業大学工業高等学校の位置にあり、学校内に同じ「橘座」という名前をつけた舞台ホールがあります。

○誠信交隣

境内にある誠信交隣は、江戸時代に日本と朝鮮の友好の架け橋となった外交使節団「朝鮮通信使」の初来日から400年目にあたる2007年8月に建てられました。朝鮮通信使は、1607年から1811年まで12回来日しています。本町通沿いの寺院に分宿し、文人たちとも交流したことが知られています。

●長栄寺

長栄寺は、寺伝によれば、もと中島郡菟園村にあり、天平13年(741)に建立された国分寺で、行基作の薬師如来を安置、弘仁年中(810～823)に空海上人が十一面観世音菩薩を安置した。江戸時代初期の清須越しの際には南寺町矢場町へ移り(1682)、二代光友公の命を受け、1683年に現地に移りました。

本堂前には、俳文集「鶉衣(うずらころも)」で知られる江戸時代の俳人横井也有(よこい やゆう)をしのぶ蘿塚(らづか)があります。また、寺務所入口には、禅寺などで食事の合図に木槌で叩き鳴らす魚鼓(ぎょこ)が釣られています。

境内には市の保存樹のイチョウがあり、「仏け銀杏」と呼ばれています。

●栄国寺

江戸時代に尾張藩主徳川光友公の開創、犬山市塔野地の薬師寺から、キリシタン宗徒や刑死者、病死者の慰霊のために本尊を迎え1664年、1665年にかけて建立されました。

切支丹遺蹟博物館の入口手前には、240年程前に創建された本堂のむね瓦があります。また、境内には市の保存樹シノキ、クロガネモチがあります。

○切支丹遺蹟博物館

敷地内には博物館もあり、踏み絵などキリスト教徒に関するものが展示されています。

●安用寺

安用寺は、清須外町にあり、江戸時代の清須越しの際に、現在地に移ってきました。このお寺の山号「太治山」という額は尾張藩主二代光友公が書いたものです。

○手たたき稲荷

境内の画にある稲荷堂の手前に手たたき稲荷があります。夜中に参詣人が、手をたたきお祈りをすると、稲荷の神の使いである狐が姿を現すというので、安用寺はますます評判となったのがいわれだそうです。明治年間、この稲荷堂は、多くの参詣人で賑わっていたようです。

●大木戸跡

かつて、名古屋城下には3箇所大木戸があり、防衛上重要不可欠な拠点でした。その一つが橘町の南端に設けられていましたが、明治に入って1872年に取り壊されました。

国道19号から本町通に入るところに、3本の桜並木があり春はとてもきれ

いです。

●東別院・古渡城跡(前述)

●仏壇・仏具のまちコース

名古屋仏壇は、1695年に高木仁右衛門が開いた仏壇専門店「ひろや」がその始まりで、この界隈に名古屋仏壇に関わる仏壇・仏具の関連事業者が集まっています。

●仏壇仏具店が集積する通り(本町通)

大須地区の南側に位置する門前町から橘にかけての本町通沿いには、仏壇仏具店が集積しています。ガラス越しに店内の雰囲気わかる店が多く、「仏壇仏具のまち」と最も感じられる場所です。

●仏壇仏具店が集積する通り(東橋の通り)

橘町界隈で本町通と並行して一本東側を走る東橋の通りにも仏壇仏具店が並んでいます。名古屋仏壇には、仏壇づくりに欠かせない製造工程が8つあり、これらを称して「八職」といわれています。ここでは、こうした職人達のお店や卸商のお店を垣間見ることができます。

●黒漆喰の町並みコース

昭和12年から本町通の拡幅がされ、防火のために黒漆喰などの木造建築を中心に独特な町並みが形成されました。昭和の雰囲気を楽しむことができるコースです。

●合名会社美濃佐商店

3階建に見える住宅部分は大正期の建物。道路拡幅のためたちの高い2階建ての前面が切り取られ、瓦葺の庇がつけられています。店舗部分は1941年に解体後再建され、屋根の酒樽の看板が昭和レトロの雰囲気を漂わせています。

名古屋市の認定地域建造物資産となっています。

●めん処天満屋

築100年以上明治期の木造2階建て。黒漆喰の建物は、かつて銅版や樋などを扱う地金屋を営むお店でした。CBC創立60周年記念番組「おかげ様で！」で主人公の生家という設定で使われたのをはじめ、マスコミの取材も多く「ドえりやーゴンズきしめん」の看板がユニークです。名古屋市の認定地域建造物資産となっています。

●有限会社柏彌紙店

文政年間(1824年頃)、初代彌兵衛が和紙、筆の商いを始め、1907年頃4代目の頃に現在地に移転、曳き屋され現在に至っています。2階には町衆の交流の場として茶会などが開催されたと言われている茶室があります。名古屋市の認定地域建造物資産となっています。

●株式会社ヤマオカヤ

築後220年以上、江戸時代から代々続く米屋で現在5代目。この建物は今の伏見通の真ん中にあり、伏見通が整備された時に現地に移されました。左右のうだつが立派な建物です。名古屋市の登録地域建造物資産となっています。

●山田屋総本店

1910年に建築された町家で、白漆喰の塗籠と、2階部分の額縁が印象的な建物です。

名古屋市の都市景観重要建築物となっています。

●ガトー・デュラ・メル・スリアン

菓子の世界大会クープ・ド・モンドの出場経歴を持つオーナーパティシエが営むカフェとスイーツの店です。建物は1939年頃建築で、和風の雰囲気を残しながらおしゃれに改装されています。名古屋市の登録地域建造物資産となっています。

●REAL Style

東別院の東側にあるレトロな建物です。大正末期に盲学校として建てられたもので、空家になっていたものを、ライフスタイルを提案するインテリアショップとして改築し、オープンしました。

●パワースポット・石巡りコース

お寺や神社の多いこの界隈のご利益のあるスポットを巡るコースです。点在する不思議な石などもあわせて巡ることができます。

- 長栄寺(前述)
- 天寧寺(前述)
- 妙善寺・七面宮(前述)
- 安用寺(前述)
- 下茶屋公園(古渡古城天守臺址)(前述)
- 日置神社(前述)
- 万松寺(前述)

●外国とのつながりコース

外国との交流が限られていた江戸時代でも、海外からの人や文化が東西を行き交い、現代に伝える遺跡も残っています。過去の海外とのつながりを感じながら、この界隈を巡るコースです。

●仏教伝来道標

真宗大谷派名古屋別院本堂に至るまでの参道入口に、親鸞聖人の真筆から抽出した道標(東別院参道)があります。道標に続いて「仏教伝来」をテーマにした6基のモニュメントが並びます。お釈迦さまの生涯とインド・中国・日本の七人の高僧、聖徳太子を経て親鸞聖人に届けられた歴史があらわされています。

●おためし場腑分けの跡(橘公園)

1854年の冬、名古屋で最初の人体解剖(腑分け)が行われました。石黒濟庵の執刀により東西の医書を対照して行い、洋書の正確なことを知ることとなりました。1771年に杉田玄白らが江戸小塚原で最初の腑分けを行ってから83年後のことです。

- 栄国寺(前述)
- 妙善寺・七面宮(前述)
- 下茶屋公園(古渡古城天守臺址)(前述)

●古墳コース

この界隈では、古代に古墳がつくられた地域であり、現在でも一部丘状に残っている場所があります。古代に思いをはせ、先人達が残してくれた都会のオアシスを巡るコースです。

●那古野山古墳

もとは前方後円墳でしたが、江戸時代に清寿院という禅寺に取り込まれた際に、「前方」がなくなり「後円」のみになりました。明治に入って市内最初の公園「浪越公園」として開園し、明治末まで市民の公園として親しまれました。1905年に鶴舞公園ができると廃園になりましたが、1910年に

那古野山公園として再度開園しました。

この周辺には日出神社の古墳の他に、終戦までは西本願寺名古屋別院の境内あたりに大須二子山古墳(全長推定75mの前方後円墳)がありましたが、現在は何も残っていません。

●富士浅間神社

1495年、後土御門天皇の命により、富士山本宮浅間神社から分霊を勧請し、創建されました。那古野山公園の古墳から出土した須恵器が保存されています。

●柳下水

江戸時代は清寿院の敷地内で「清寿院の柳下水(りゅうかすい)」は尾張の三名水の一つといわれていました。

かつて、清寿院の境内には芝居・見世物小屋なども出て大いににぎわっていたと伝えられており、柳下水は清寿院を訪れた人への供水として、また将軍が江戸から京都に上洛する際に飲用水として利用されていたようです。

●日出神社(古墳)

日出神社は、もと愛宕社と称して清須に鎮座していましたが、慶長15年名古屋城築城の際、現地に移されました。明治42年に合祀して、社名が日出神社と改められました。

国生み神話で有名なイザナギ命、イザナミ命の末子として生まれた日出神社主祭神の「カグツチ命」、アマテラスとスサノヲの誓約(ウケヒ)で生まれた「宗像三女神」、岩戸隠れ神話に登場する「稚日女(ワカヒルメ)」、天孫降臨神話の「猿田彦大神」等々日出神社には記紀神話に登場する神々が祀られています。

ここにある古墳は、前方後円墳が円墳の二説あり、現在は墳丘の南・西・北側がかなり削り取られています。

